第２学年＊組　社会科学習指導案

指導者　川和　雅人

教科の研究主題	問題意識をもち，自ら追究する態度を育む社会科学習指導の在り方

授業のテーマ	世界の気候の様子について，既習知識や生活経験を活用して問題を見いだし，自分の考えを論拠立てて説明する力を高める学習指導法の工夫

１　単　　元　　世界と日本の自然環境

２　目　　標

・　日本の地形や気候は，世界各国と比較して複雑であり，四季の変化など地域差があることに関心をもとうとする。（関心・意欲・態度）

・　くらしに影響を与える地震や洪水などの自然災害の原因を多面的に学習し，災害を防止するための努力や工夫について考えることができる。（思考・判断）

・　地球儀，地図，主題図，統計資料などから，世界と日本の地形や気候区分とその成り立ちを読み取ったり，つかんだ特色を白地図や雨温図などにまとめたりすることができる。（技能・表現）

・　世界的に見て日本の地形や気候はどのような特色があるか説明することができるとともに，国内を見て複雑な地形や気候の分布を地図上で指摘し，くらしに影響を与える様々な自然災害があることを理解できる。（知識・理解）

３　単元について

本単元は，日本の自然環境について，世界的視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と，日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色をとらえる活動を通して，わが国の国土の特色を自然環境から概観することをねらいとしている。本時では，前者の視点で，世界には似通った自然環境（気候）をもつ国々があり，それらの国々の位置関係を知ることにより，日本を含め，まとまりごとに分類できることを大観的にとらえることを目標とする。また，環境問題や自然災害が大きくクローズアップされている昨今において，地形や気候帯の特色を網羅的に理解するのではなく，自分たちの生活様式が，先人たちが長い時間をかけて自然と向き合い，多くの知恵と工夫によりつくり上げられてきたものであることにも強く言及したいと考える。

本学級の生徒は，社会科の学習において調べること，作業すること，まとめることなどに熱心に取り組むことができる。一方で，社会的事象に対して，既習の知識や自分自身のそれまでの経験を活用して自分の社会観を形成し，他者に対して自己の考えや意見を伝え合う力は，どちらかというと育てられていない。

本単元では，既習知識や生活体験を活用していかに自分の考えを構築し，それを論拠立てて他の人に説明できるかが学習の柱となる。構築した考えは，当然のことながら教科書に照らして正か否かを問うものでなく，資料のどの部分に焦点をあて，どのようにして自分の考えを導き出したか，その思考過程が鍵となる。また，話し合いの中で，聞き手側を「ほめ役」と「批判役」に強制的に役割分担することとした。このことにより，聞き手側は発表後に何らかのコメントをせざるを得ず，自分の役割を意識し，全力で聞き，考えようとするはずである。 出てきた意見の中から学習内容の本質を貫くものを取り上げ，さらに全体の場で深めていきたい。

４　学習計画（７時間取り扱い）　※　下表は２・３・４時の学習過程を示す。

時間	学習過程	目　　標	評価規準
1	日本の山地と海岸	・　山がちである日本の地形や日本周辺の海や海岸の特色を世界の地形と関連させてとらえる。	・　国土における山地・丘陵地の占める割合や，山脈・山地・火山の分布など日本の山脈・山地の特色を理解している。（知識，ワークシート）
1	日本の川と平野	・　世界と日本の川，平野の比較を通して，日本の川，平野の特色を考察する。	・　世界と日本の川，平野の規模の違いや特色について資料から考察している。（技能，ワークシート）
1 本時	世界の気候の様子	・　世界の五つの気候帯の特色について，他者の考えと自分の考えとを比較検討し，自分の考えを論拠立てて述べることができる。	・　世界の五つの気候帯の特色について，他者の考えと自分の考えとを比較検討し，自分の考えを論拠立てて述べている。（思考，行動観察　ワークシート）

5　本時の学習

（1）　目　標

・　自分の既習知識や生活経験を活用し，人々の生活様式は，気候と密接に結び付いていることに気付こうする。（関心・意欲・態度）

・　世界の五つの気候帯の特色について，他者の考えと自分の考えとを比較検討し，自分の考えを論拠立てて述べることができる。（思考・判断）

（2）　準備・資料

ア　教師　世界全図掛図　五つの気候帯の衣・食・住の特徴を表した提示用資料　ワークシート

イ　生徒　地図帳

（3）　展　開

学習活動及び内容	表現力を高める工夫	教師の支援・留意点
1　本時の学習課題について確認する。 世界の様々な地域にくらす人々の衣・食・住の様子から，それぞれの地域における気候の特色を探ろう。		・　自分たちの普段のくらしぶり（服装や住居など）から，日本ではなぜそのような生活様式になっているかについて話し合い，生活の何気ないところにも気候を意識した工夫が数多く存在することに気付かせる。
2　世界各地域にくらす人々の衣・食・住の資料を見て，それぞれが世界のどの地域の人々のくらしを表しているのか類推する。	・　まず，個人で調べることにより，自分なりの考えをもって意見交換の場に臨めるようにする。	・　「寒帯」「冷帯」「温帯」「熱帯」「乾燥帯」のそれぞれの衣・食・住の特色を示す写真資料を提示し，それは世界のどの地域のくらしを示し，該当する雨温図はどれかを，特に相違点に着目しながら読み取れるようにする。
3　類推した内容をもとに，人々のくらしとその地域の気候の特徴とを結び付け，なぜそのように考えたのか，根拠を明らかにする。	・　小グループで話し合うことにより，一人一人の発言時間を保障するとともに，練り合いによって考えを深められるようにする。	・　緯度，気温，降水量，海流などの気候に変化をもたらす要因については，それぞれの既習知識や生活経験を活用して類推することを期待する。A男については，ヒントカードをわたし，気候を構成するパターンにもとづいて考えるように助言する。 ・　小グループでの話し合いにおいて意見が食い違った場合は，急いで結論を出そうとせず，考えの根拠の正当性についてじっくり検討するように助言する。
④　世界の様々な地域の気候の特徴について話し合い，それぞれの地域の気候の特徴を結論づける。 また，同じ気候の特色をもつ国々の位置関係から，五つの気候帯の意味を知る。	◎　「ほめ役」「批判役」のどちらかになって発表を聞くことにより，考える視点をもって話し合いに参加できるようにする。	・　「ほめ役」「批判役」となるグループを決め，漫然と発表を聞くことがないようにする。また，発表後は，聞き手側のグループの代表が，グループ内の意見を素早く集約し，発表に対するコメントを述べる。 ・　役割については，ローテーションにより，誰もが両方の役を経験できるようにする。 ・　世界の五つの気候帯の特色について，他者の考えと自分の考えとを比較検討し，自分の考えを論拠立てて述べている。（思考・判断，行動観察　ワークシート）
5　学習を振り返って自己評価をし，次時の見通しをもつ。		・　自分の考えの変容を意識しながら本時の学習を振り返り，学習した成果を再確認できるようにする。